



桐生市の観光の取組み

桐生市 産業経済部 観光交流課

【西の西陣・東の桐生】と言われるほど、国内有数の織物産地である桐生市。関が原の戦いの際、徳川家康に軍旗を献上したことにより、桐生の絹織物は全国に広がり、日本を代表するまでとなりました。

今でもその伝統と歴史は、桐生に色濃く残っています。織物工場の代表的な様式であるノコギリ屋根工場は、市内に100箇所以上あります。現役で稼働している工場も多数あり、見学も可能です。また、平成27年4月には、文化庁が認定する日本遺産「かかあ天下—ぐんまの絹物語—」の、絹にまつわる構成資産12件のうち、半数の6件が桐生市より選定されました。

そんな桐生市は「産業観光のまち」として大変注目されています。特に、明治・大正時代の建物が多く残り、レトロな雰囲気を楽しめる「重伝建地区(桐生新町重要伝統的建造物群保存地区)」のまち歩きが人気です。まち歩きの際、桐生の魅力をより一層知ってもらうために、観光ガイド「織都桐生」案内人の会が、お客様のニーズにあわせて、桐生のまちをご案内します。また、地区内の古民家カフェ「大風呂敷」では、毎月第一土曜日に、お得な着物着付けを行っています(着物レンタルと着装で3,000円)。着物を着付けてのまち歩きは、外国人観光客にも大変好評です。

また、JR両毛線沿線で、それぞれ個性のある着物文化が発達している前橋市・伊勢崎市・みどり市・桐生市・足利市・栃木市で、それぞれの街を訪れてもらうための『まち歩きスタンプラリー』、着物を着てまちなかを歩いてもらうための『オススメスポット紹介』、それぞれ特徴ある着物を実際に身に着けてみる『特別着付けプログラム』を実施し、各市の着物文化体験と街中への観光客誘導、両毛線の利用促進を図っております。

桐生市では、今年度は平成28年10月22日(土)、23日(日)に「両毛線沿線のほほん列車たび 特別着付けプログラム in きりゅう」を実施いたしました。写真撮影やお抹茶・和菓子のふるまいの他、桐生市オリジナルツアーとして、機屋が愛した料亭「一婦美」での特別ランチや重伝建地区ガイド付き散策、国登録文化財にも指定されている古民家「アトリエSOGA」で手作りキャンドル体験などを行い、お客様に桐生を満喫していただきました。

市民のみなさんで創り上げてきた桐生市の文化・魅力を、行政がPR・サポートし、お客様を誘致することで、観光・交流人口の増大を図り、まちの活性化につなげていきたいと考えています。



“織都桐生”案内人の会による重伝建地区の案内



着物を着てまち歩きをする様子



一婦美での特別ランチを楽しむ様子



アトリエSOGAでキャンドル作り体験をする様子